

会議名	平成30年度 第1回スポーツによるまちづくり推進委員会
開催日時	平成31年2月7日(木) 18時30分から20時00分
場 所	市役所3階 第1委員会室
出席委員 (12名)	平中 政明、佐藤 俊子、重永 澄恵、岩間 英昭、高橋 睦美、野村 一也、笹村 正三、長谷川 義明、平田 武、宮川 力雄、瀬口 康道、塩田 賢二
欠席委員 (4名)	千々松 正俊、日高 功一朗、原井 敬太、銭谷 辰典
傍聴者	なし
担当課及び 出席者	地域振興部：川地部長 シティセールス課：大井補佐 スポーツ振興課：矢野課長、熊野主査
会議次第	1. 事務局あいさつ 2. 議事 (1) スポーツによるまちづくりの取組みについて (2) 山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画について 3. その他
委員長  事務局  委員  事務局	1. 事務局あいさつ 2. 議事  (1) スポーツによるまちづくりの取組みについて、事務局から説明  レノファやインターネット等でのPRの話があったが、県立サッカー場にはレノファ以外にもサッカーで多くの人を訪れる。県立サッカー場の一部を利用し山陽小野田を知りPRするなどの展開は何か考えているか。  県立サッカー場は交流公園ということでサッカー場、外周にもランニングなどで多くの人を訪れる。ただ工業専用地域であるため店舗や商行為が制限されている。またパンフレットを置くスペースも少ないが、限られたスペースで市内の観光、名所をPRし皆様の目に触れるよう心がけていく。

委員長	資料7ページでレノファの年2回のトレーニングマッチと今回はファン感謝デーを行ったが、その際観光協会とタイアップして市のチラシを置いたり飲食店に協力を求めたりした。ただ会場に行って帰るだけでなく少しずつではあるが取組みをし、31年度はもう少し充実させていこうと考えている。
委員	推進計画は平成28年から10年計画で、今回平成31年度の目標値を掲げているが10年間計画の中での31年度の目標値の位置づけを伺いたい。というのは3月の会議のときに30年度の目標値が掲げているが今回と若干齟齬があった。10年間の計画の中で最初の3～4年はどうするのか、後期はどうするのかとういことで目標値を立てて、それが達成されればいいが厳しければ原因は何かと解析しながら次に結びつける必要がある。
事務局	10年間のスパンでみた目標であれば一番いいが、多くのものは今年度、昨年度の伸びを見据えた中で数値目標を挙げている。後ほど議題2で触れるが国の計画、県の計画が大きく変動している。それを踏まえ来年度スポーツ推進計画の改正を考えている。その中で目標値を再度設定していきたい。
委員	今の話を聞いて推進計画が果たして10年間でいいのかと思う。総合計画は12年で前期、中期、後期で4年である。推進計画も4年くらいで見直す方がいいのかなと思う。概念は変わらないとしても見直したほうがいいと思うのでご検討いただきたい。
委員長	スポーツ推進計画は国の計画と県の計画の2つの計画に沿った計画を作る必要がある。本市の計画は理念が多く目標値があまり出てきていないので総合計画の中で目標値を定め、更には毎年実績の検証をする中で目標値の修正を行っていく。推進計画は10年間としてその中の短い期間は総合計画、実施計画で合わせたやり方をする中で皆様に示していきたいと考えている。
委員	私は委員の言われたように長期の目標をどこで定めるか、委員長が言われたように部分的にできるなら委員が言われた形でも出来る。委員の言われたように中間の中で目標を決められて方向性を見出す方に賛成する。

<p>委員長</p>	<p>また、外貨を稼いで一人でも多くこの市に来ればお金が入ってくることからみるとこの市に何があるのか。もっと違った面から、地域外の人から意見を聞くことがいいのではないかと思う。</p> <p>期間設定は第二次総合計画の前期、中期、後期があるので10年を5年位に分けて数字を見ていかないと状況も変わってくる。変われば見直しになるが、区切りながら見ていきたい。</p> <p>レノファの関係もファン感謝デーの時は850人入ったが市外が半数だった。アンケートを取ったが市外の人がどう考えているかを分析活用しながらやっていきたい。また仰るとおり市内の人には何でもないことが市外の人には財産ということもあるので調査をしながらやっていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>総合計画は前期4年の平成33年までで、スポーツによるまちづくり推進計画もそこで見直すようにすると総合計画とリンクしてうまくマッチングすると思うので検討して欲しい。</p>
<p>委員長</p>	<p>総合計画は前期4年で平成33年まで、中期は平成34年度から始まるがそこでまた変わってくる。抜本的な見直しは中期計画から合わせた方がやりやすいと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>小学生や中学生の運動能力は平均を取るが、運動する者としめない者の二極分化が激しい。駅伝に出る者はマラソンにも出ており同じ人物もいると思う。苦手な者は出ない。健康寿命と平均寿命を近づけるには裾野を広げるしかない。マラソン、駅伝が苦手な子が楽しいと思えるスポーツ、体を動かすのがおもしろいなと思ってもらえることが大事である。例えばカローリングなどは嬉々としてやる。事業で言うと「市民ふれあいスポーツ大会」を充実させてもらえると苦手な子がカローリング、ペタンクをおもしろいと思ってもらえると裾野が広がる。裾野を広げることを考えるのがスポーツによるまちづくりになると考える。優秀な選手を育てるのもいいが苦手な子を参加させる取り組みを企画の中で練ってもらえるとおもしろいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>小学生を対象とした大会は今年アジャタ（玉入れ）を行った。参加者が96人目標100人としているが、情報の周知、開催時期、種目を工夫しながら小学生、若年層もう少し下の学年が参加できるよう模索</p>

	<p>していきたい。まずは、小学生職人No.1 決定大会をもう少し大きくするよう目標にしながらニュースポーツを取り入れていくことも考えていきたい。</p>
委員	<p>小学校の先生方の力を借りたらいい。苦手な種目等もキャッチされていると思う。</p>
委員	<p>逆に今スポーツ振興課でなくふるさとづくり協議会で計画されているカローリングがある。校区内対抗や中学生の大会もかなりの参加者が出ている。山陽小野田市のメインとなるものが何か、他の市がやっていないカローリングや県立サッカー交流公園を主体に活動をすすめていったらいいと思う。</p>
事務局	<p>ふるさとづくり協議会ももちろん健康増進ともタイアップして色々なスポーツをする場面を取り入れて各部署との連携も深めていく。</p>
委員	<p>パラサイクリングキャンプ地誘致推進事業について6 ページを見ると2020年パラリンピックに集中するため平成31年度以降は事業を継続しないとあるが、事業は終わりでよいか。</p>
事務局	<p>パラサイクリングキャンプ地誘致推進事業は継続し、下のジャパンライジングスタープロジェクト～選手を発掘する事業を継続しないという意味である。パラサイクリングの合宿は引き続き平成31年度も引き続き行っていく。</p>
委員	<p>パラサイクリング交流事業に関して埴生小学校で2回行っているが、その他の小学校での展開は考えているか。</p>
事務局	<p>地理的な関係もあり埴生小学校で行っていたが、広く周知した上で今後出来るよう働きかけていきたい。</p>
委員長	<p>去年はたまたまレース場で行い小学生に来てもらった。おとしは、選手監督が各学校に出向き講演等を行っている。</p>
委員	<p>4月に合宿を見に行かれたら参考になる。そのスピード感などは健常者と変わらない。</p>

委員	このような情報はあまり知らない。もっとPRをすべき。
委員長	市民の方に知ってもらう事が一番大切であると考えている。
委員	<p>(2) 山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画について</p> <p>山陽小野田市の独自の目標が2つあり、スポーツボランティアの数と週1回以上スポーツをする割合があり、この目標は広報に載せて一般市民に知ってもらう必要がある。また週1回以上スポーツをする割合も今30%だが、50%の目標を立てている。この数値もいつ頃アンケートをされるか分からないが途中で把握する必要があると思う。</p>
委員長	市全体の総合計画の中でスポーツに関する目標を2つ立てており週1回以上スポーツを行う割合を平成27年度の30%を平成33年度に40%、スポーツボランティア登録数を平成27年度64人を平成33年度に100人にしようという2つの大きな目標を掲げている。実態調査としていつやるかは、全庁的なことでもあり、平成32年位になるのではないかと思う。
委員	推進計画の下に実施計画もあり、今後可能なら委員会で実施計画もお示しいただきたい。
委員長	<p>総合計画にも取り組みは出ているし、推進計画にもそのようなものがあれば分かりやすいと考えている。</p> <p>3. その他</p> <p>①委員の任期について</p> <p>②市民館の閉館期間の延長について</p> <p>以上で会議を終了する。</p>